

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑦

食と農の結びつきの強化に向けて

優れた農業経営者の育成を目指す栃木県農業大学校と、食の専門家を育成する学校法人

三友学園は、「農」と「食」双方の資源を有効活用し、教育機能の強化や学生の交流を促進することにより、栃木県の農業・農村や食産業の振興

に取り組んでいます。平成26年11月に連携協定の締結を行い、農業大学校による講義や農業体験、三友学園による講義実習等に

園が実施する「夏休み学生食堂」等において、農大産農産物を使ったメニューの提供や双方の学園祭への参加出展なども予定しています。



さつまいもの定植前指導



かぼちゃの定植体験

ついて相互受け入れや双方の学園祭への参加出展など、学生の交流を行っています。
今年度は、5月30日から三友学園の学生39名が農業大学の先生の指導で、「さつまいも」「かぼちゃ」等の定植作業を行うとともに、農業大学校で栽培している様々な野菜の圃場を見学しました。参加した学生からは、「非常に楽しかった。調理をする上で食材の現場を見るのができて参考になった」との声がありました。

今後は、三友学

日本とブラジルの架け橋に 両親と同じ道、独立営農目指す

私が農業に興味を持ち始めたのは高校に入学してからの事でした。普通科に在籍し、農業とは縁のない生

活を送っていましたが、自分について考える時期に、かつて両親がブラジルで農業を営んでいたとい

う話を聞き、自分も農業について学んでみたいと思い、栃木県農業大学校に入学しました。

る経験はもとより、基礎的な知識すら持ち合わせていなかった私は、入学後しばらくは苦心する日々を過ごしていました。しかし、本校での1年間の講義と実習を通して、現在では「少し慣れてきたかな」と思えるくらいになりました。



カブの栽培管理

う話を聞き、自分も農業について学んでみたいと思い、栃木県農業大学校に入学しました。農作業に従事する体実習では、実際に農業で生活をし

ている方のもとで実習することで、より農業の魅力や深みに触れることが出来ました。同時に、新規就農並びにその後の経営維持の厳しさについても伺えました。約1カ月という短い期間ではありましたが、今後に活かすことのできる有意義な時間でした。また、11月に実施された農大祭では、消費者の方々や直接向き合って農産物を販売することで、地域における生産者の役割や心構え、食の安全について改めて考えるきっかけを得ました。



トマトの成育調査

私は、本校を卒業後、雇用就農して経験を積みながら、将来は両親と同じようにブラジルで独立営農したいと考えています。そして、農業を通して日本とつながりを持った事業に取り組みしていくことが夢です。日本とは全く異なる環境でも、本校で学び、考えた事をもとに、自分の理想とする農業経営を実現できるよう、これからも努力していきたいです。

(農業経営学科・清水 光男)